

RH850コンパイラ CC-RH スタートアップ・ルーチン

ルネサス システムデザイン株式会社
ツールビジネス事業部 ツール技術部

2014/10/7 Rev. 1.00

R20UT3214JJ0100

スタートアップ・ルーチンの役割

スタートアップ・ルーチンとは、**RH850をリセットしたあとmain関数を実行する前までに実行するルーチン**のことです。CC-RHではスタートアップ・ルーチンはアセンブリ言語で記述して頂く必要があります。

なお、CS+で新規プロジェクトを作成した場合には、スタートアップ・ルーチンのサンプルとして”cstart.asm”がプロジェクトに登録されています。本ファイルでは主に以下の処理を行っています。必要に応じてカスタマイズしてご使用ください。

- スタック領域の確保
- セクション初期化テーブルの確保
- 各種ポインタの設定
- ハードウェアの初期化(ECC機能向け)
- RAM領域の初期化
- main関数への分岐

cstart.asm の説明 (1/11)

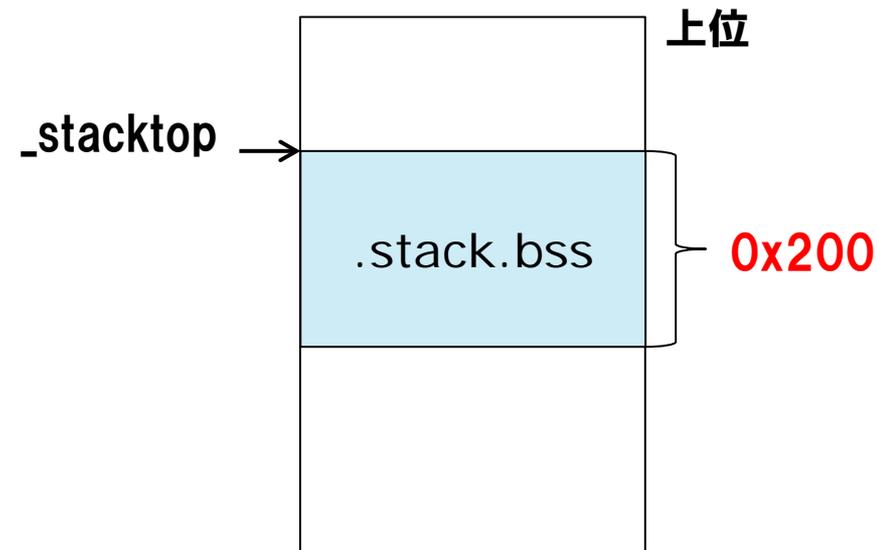
■ スタック領域の確保

```
-----  
;                                 
;      system stack  
;                                 
-----  
STACKSIZE      .set      0x200  
                .section ".stack.bss", bss  
                .align   4  
                .ds      (STACKSIZE)  
                .align   4  
  
_stacktop:
```

スタック領域は `.stack.bss` セクションに配置

デフォルトでは 0x200 バイト分のスタックが確保、必要に応じてサイズを変更

この後、ラベル “`_stacktop`” のアドレスを `sp` (スタック・ポインタ) に格納します。



cstart.asm の説明 (2/11)

■ セクション初期化テーブルの確保1

セクション初期化テーブルとは、_INITSCT_RH関数に渡す引数用のテーブル

特殊シンボル:

アセンブラにおいて

- セクション名に”#_s”を付けると、そのセクションの**先頭アドレス**
- セクション名に”#_e”を付けると、そのセクションの**終端アドレス**

例: 0x1000~0x2000番地に.dataセクションが配置されている場合

#__s.data は0x1000

#__e.data は0x2000 としてアセンブル

cstart.asm の説明 (3/11)

■ セクション初期化テーブルの確保2

```
;-  
;      section initialize table  
;-  
      .section          ".INIT_DSEC.const", const  
      .align 4  
      .dw      #__s.data,      #__e.data,      #__s.data.R  
  
      .section          ".INIT_BSEC.const", const  
      .align 4  
      .dw      #__s.bss,      #__e.bss
```

data属性セクションの初期化テーブル".INIT_DSEC.const"セクションには
ROMセクションの先頭アドレス, ROMセクションの終端アドレス, RAMセクションの先頭アドレス

bss属性セクションの初期化テーブル".INIT_BSEC.const"セクションには
先頭アドレス, 終端アドレス

がそれぞれ4バイト分確保

cstart.asm の説明(4/11)

■ セクション初期化テーブルの確保3

デフォルトでは.dataセクションと.bssセクションのテーブルが確保されていますが、お客様自身でセクションを追加した場合、本テーブルにも同様のフォーマットで追記してください。

例:.sdata/.sbssセクションと.zdata23/.zbss23セクションを追加した場合

-rom=. sdata=. sdata.R -rom=. zdata23=. zdata23.R 指定時

```
.section          ".INIT_DSEC.const", const
.align 4
.dw    #__s.data,    #__e.data,    #__s.data.R
.dw    #__s.sdata,  #__e.sdata,  #__s.sdata.R
.dw    #__s.zdata23, #__e.zdata23, #__s.zdata23.R
```

```
.section          ".INIT_BSEC.const", const
.align 4
.dw    #__s.bss,    #__e.bss
.dw    #__s.sbss,   #__e.sbss
.dw    #__s.zbss23, #__e.zbss23
```

cstart.asm の説明 (5/11)

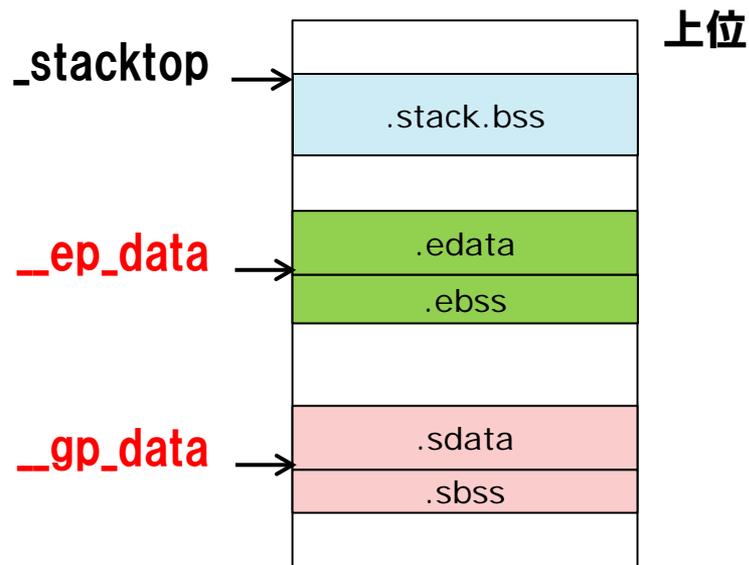
■ 各種ポインタの設定1

```
-----  
; startup  
-----  
    .section ".text", text  
    .public  __start  
    .align   2  
__start:  
    mov     #_stacktop, sp      ; set sp register  
    mov     #__gp_data, gp     ; set gp register  
    mov     #__ep_data, ep     ; set ep register
```

“_gp_data”、“_ep_data”はリンカが自動的に生成

これらのシンボルをそれぞれsp (スタック・ポインタ)、gp (グローバル・ポインタ)、ep (エレメント・ポインタ) に設定

gp/epをベースレジスタとするセクションが存在する場合、gp/epの設定が必要です。



cstart.asm の説明 (6/11)

■ 各種ポインタの設定2

“_gp_data”、“_ep_data”はリンカが自動的に生成しますが、ユーザーが明示的に指定することも可能です。

例：“_gp_data”を0xfede5000に指定してgpに設定

```
.public __gp_data
__gp_data .equ 0xfede5000

...

mov    __gp_data, gp
```

cstart.asm の説明(7/11)

■ ハードウェアの初期化(ECC機能向け)1

```
;------  
;  
;      hdwinit  
;------  
      .section ".text", text  
      .align 2  
_hdwinit:  
      mov     lp, r14                ; save return address  
  
      mov     PRIMARY_LOCAL_RAM_ADDR, r6  
      mov     PRIMARY_LOCAL_RAM_END, r7  
      jarl    _zeroclr4, lp         ; clear Primary local RAM  
  
      省略:SECONDARY_LOCAL_RAM_ADDR から  
           SECONDARY_LOCAL_RAM_END のゼロクリア  
      省略:RETENTION_RAM_ADDR から  
           RETENTION_RAM_END のゼロクリア  
  
      mov     r14, lp  
      jmp     [lp]
```

ECC機能向けにRAM領域をゼロ初期化

⇒ ゼロ初期化されていないRAMをアクセスするとECCエラーが発生

cstart.asm の説明 (8/11)

■ ハードウェアの初期化(ECC機能向け)2

ECC機能向けゼロ初期化に使用しているRAMの先頭アドレス、終端アドレスはcstart.asm 内で定義しています。**対象デバイス向けにアドレスを変更してください。**

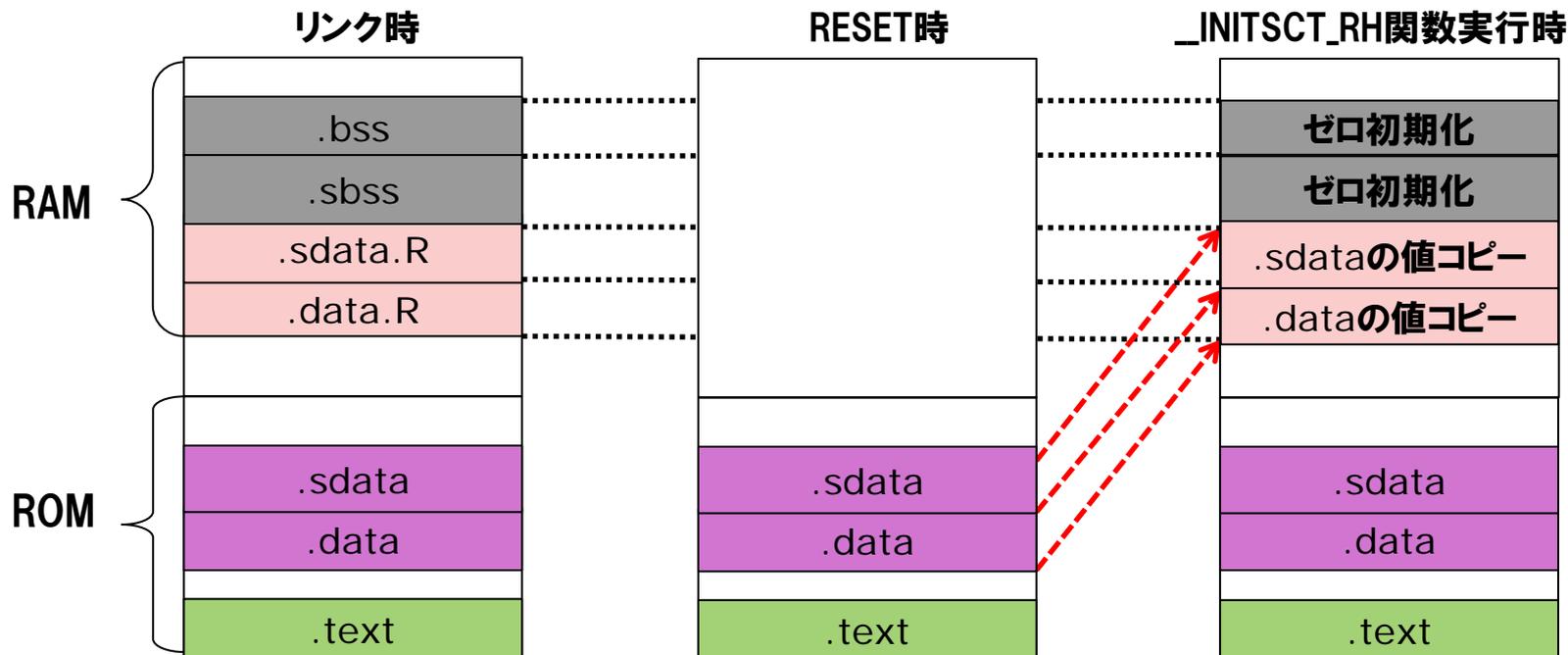
```
-----  
;target dependence informations (specify values suitable to your system)  
-----  
$if 1  
    ; RAM address  
    PRIMARY_LOCAL_RAM_ADDR      .set      0xfede0000  
    PRIMARY_LOCAL_RAM_END      .set      0xfedfffff  
  
    SECONDARY_LOCAL_RAM_ADDR    .set      0xfedd8000  
    SECONDARY_LOCAL_RAM_END    .set      0xfeddffff  
  
    RETENTION_RAM_ADDR         .set      0xfee00000  
    RETENTION_RAM_END         .set      0xfee07fff
```

cstart.asm の説明 (9/11)

■ RAM領域の初期化1

```
mov    #__s.INIT_DSEC.const, r6
mov    #__e.INIT_DSEC.const, r7
mov    #__s.INIT_BSEC.const, r8
mov    #__e.INIT_BSEC.const, r9
jarl32 __INITSCT_RH, lp      ; initialize RAM area
```

_INITSCT_RH関数を使用して、data属性セクションの値のコピー (ROM化)、bss属性セクション領域のゼロ初期化を行います。



cstart.asm の説明 (10/11)

■ RAM領域の初期化2

data属性セクションの値のコピー、あるいはbss属性セクションのゼロ初期化のどちらかが不要の場合は、_INITSCT_RH関数の引数 (r6~r9) に0を指定してください。

例: data属性セクションのゼロ初期化が不要の場合

```
mov    0, r6
mov    0, r7
mov    #__s.INIT_BSEC.const, r8
mov    #__e.INIT_BSEC.const, r9
jarl32 __INITSCT_RH, lp      ; initialize RAM area
```

例: bss属性セクションのゼロ初期化が不要の場合

```
mov    #__s.INIT_DSEC.const, r6
mov    #__e.INIT_DSEC.const, r7
mov    0, r8
mov    0, r9
jarl32 __INITSCT_RH, lp      ; initialize RAM area
```

cstart.asm の説明 (11/11)

■ main 関数への分岐

```
    stsr    5, r10, 0           ; r10 <- PSW
    ldsr    r10, 3, 0          ; FEPSW <- r10

    mov     #_exit, lp         ; lp <- #_exit
    mov     #_main, r10
    ldsr    r10, 2, 0         ; FEPC <- #_main

    ; apply PSW and PC to start user mode
    feret
```

main 関数に分岐します。これでスタートアップ・ルーチンの処理は終了です。



ルネサス システムデザイン株式会社

©2014 Renesas System Design Co., Ltd. All rights reserved.